

映画上映会

赦し

용서
그 먼 길 끝에 망신이 있었어

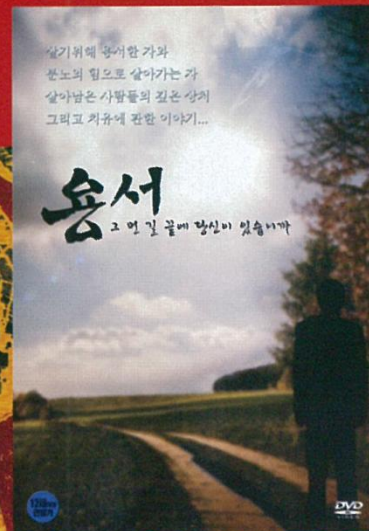
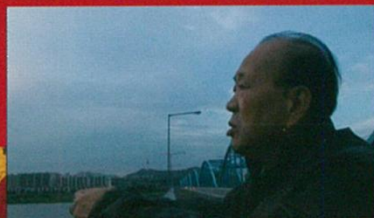
その遙かなる道

10|20 Sat

PM1:30 @千葉県弁護士会

参加費無料
事前申込不要

監督 ● チョウ・ウクフイ
ナレーション ● 竹下景子 (韓国版オリジナル キム・ヘス)
韓国SBS制作



ここに、愛する家族をすべて殺され、
喪失の痛みと絶望の中で、一日一日を生き延びる
遺族たちの鮮烈な物語がある…



残酷な殺人犯罪の犠牲者たち——愛する妻と母親と一人息子を殺されて悶え苦しむ父親、ひとりの殺人者のために3人の兄弟を次々と失いひとり残された弟は、消えることのない憎悪を糧に一日一日を生き延びる。そうして残された者は、自らが生きるため、殺人犯を赦す道を選択する以外になかった…。生きるとは、愛とは、そして赦すとは、一体なにを意味するのか？そしてそれは本当に可能なのか。私たち現代社会に生きる者すべてに対して、究極の問いかけを突きつける感動の下クメンタリー問題作。

●監督 チョウ・ウクフイ ●脚本 チェ・ギョン ●ナレーション 竹下景子(韓国版オリジナル キム・ヘス)

【日時】 2018年10月20日 (土)
13:30-16:00 (開場13:00)

【場所】 千葉県弁護士会 3階講堂

【内容】 映画上映 / 千葉県弁護士会所属弁護士
(船澤弘行弁護士) による死刑制度の解説

主催・問合せ先：千葉県弁護士会 TEL043(227)8431

共催：日本弁護士連合会





自分だったらどうするだろう。胸苦しくなるほどに問い詰められる。主人公の憎悪から赦しに向かう苦悩の道が、他人事とは思えないほどに迫ってくる。本当にひとはひとを許すことができるのか。家族愛について考えさせられた。

(ルポルター・ジュ作家・鎌田慧)

この作品に登場するどのお一人と出会ったとしても、自分にはかけることが見つかからないのではな
いか。「死刑制度」から遠くに身を置こうとしてい
る、直視を避けようとしている自分に気づかさ
れ、考えさせられる。

(石坂啓)

人間の命は、人間の力や知恵を超えた、何か大きなものによってつくられたのだと思う。そのことに気づいたときに人間はほんとうに強くなる。この映画から人間の名誉と尊厳の原点を教えられた。

(作家・元外務省主任分析官・佐藤優)

この映画の事情や背景をそのまま日本に当てはめることは難しい。でも(だからこそ)観ながら悶えなくなる。骨が軋む。そして最後に思う。赦しの意味を。救いの意味を。

(森達也)



赦し その遙かなる道

監督 チョウ・ウクフィ
日本語版ナレーション 竹下景子
韓国SBS制作
本編100分



上映会終了後、死刑制度をとりまく現状について、弁護士による解説及び質疑の時間を設けています。



死刑制度について考えることは、特別なことではない。それは、私たち自身の心と人生に向き合い、日常の中の感情について考えること、つまり人間について考えることにほかならないのだ。

(香山リカ)

チョウ・ウクフィ監督より

こんにちは。

私は、韓国の民間放送社であるSBSで、ドキュメンタリーの制作を担当しているチョウ・ウクフィです。今回、私の作品を通じて日本の皆さまにお目にかかることができ、大変光栄に思います。

今回、日本の皆さまにご紹介するドキュメンタリー映画「赦し・その遙かなる道」は、私が2004年から2008年まで、約4年間のあいだ、殺人被害者遺族と、殺人を犯した死刑囚たちを取材し、記録して制作した作品です。

このドキュメンタリー映画は、愛する自分の家族を殺害した殺人者を赦そうと、悶え苦しむひとりの人間の凄絶な物語です。

生きるために赦すことを選択した者と、憎しみを糧に生き延びる者……

2003年9月から2004年7月まで約1年のあいだに、主に富裕層と女性を対象に連続殺人を実行した殺人犯ユ・ヨン Chol(柳永哲)に、母と妻、そしてたった一人の息子を殺されたにも拘わらず、彼を赦そうとするコ・ジョンウオン(高貞元)さん、ユ・ヨン Cholにより長兄と次兄、そして弟を失った後、ひたすら世間に対する怒りと憎しみで、一日一日を生き延びるアン・ジェサムさん……

この映画は、殺人者に対する憤怒と赦しをとりまく、実際のお話です。

しかし、この映画はまた、父母とその子どもたち、兄弟、夫婦、職場の同僚など、些細な事柄にもお互いを赦すことができず、そのためにしばしば苦しいときを過ごすことになる、私たち自身に関する話でもあります。

果たして、私たちにとって、「赦し」とはどのような意味を持つのか。そしてそれは、本当に可能なのか。この映画は、そのような問いを投げかけています。

社会はますます複雑になり、人間関係もやはり、ますます苦しいものになり

つつあります。競争は激しく、私たちはよりしばしば、自らの人間性をテストされるようになりました。不完全な世界を生きていく不完全な私たち人間にとって、赦しとは事実上、不可能なことなのかも知れません。だからこそ、「赦し」とは、人間の為す行為の中で、神にもっとも近づくものだとされているのではないのでしょうか。

今回のドキュメンタリー映画のナレーション

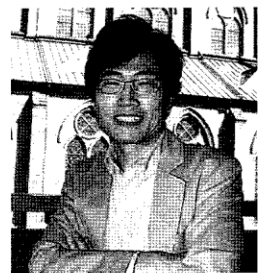
(オリジナル韓国語版)は、女優のキム・ヘスさんが引き受けてくれました。彼女自身、このドキュメンタリー映画を通じて、いろいろなことを考えたと言います。そしてご自身の出演料全額を、犯罪被害者支援基金に寄付してくれました。

犯罪のない社会が不可能であるならば、私たちは、私たちの周辺にいる犯罪被害者の方々を、温かくいたわらなければいけません。彼らがいちわりを受けることができず、自分の運命とこの社会を怨むことになるとしたら、また新しい不幸と悲劇が生まれるからです。

この世界は、これから益々、人が生きて行くのが苦しい社会になっていくのかも知れません。しかし、その中には、自分に過ちを犯した人を赦そうとして悶え苦しむ、弱く、そして偉大な人間も共に生きているのです。そのような人々が作り上げていく社会は、やはり生きる価値のある世界でありましょう。

私は、ひとりのドキュメンタリー映画監督として、私の作品を通じてこの社会が、少しでもよりお互いを想い、愛と平和に満ちたものになる一助ができればと思います。

私の映画をご覧いただく全ての方々に、愛と平和がともにあることをお祈りしつつ、この暖かな春の日に、愛し、そして愛されることを……(2010年4月20日)



問合せ先：千葉県弁護士会

TEL 043 (227) 8431